



参画だより

NO. 22
2005. 1. 24
弘前市民参画センター



弘前市民参画センターは開館してから4年が経過しました。開設以来年々利用者が増え、現在では年間約3万人の人々の活動の場になっています。街中にあるため交通の便が良く、利用料金が安いことも特徴です。
平成15年度のセンター利用状況を報告いたします。

平成15年度利用状況報告

弘前市民参画センター

さんかくネット

弘前市民参画センターは、男女共同参画社会をめざすとともに、皆さんがさまざまな社会活動に主体的、積極的に参画していくための拠点施設です。
男女共同参画に関する事業を行なうほか、情報発信、学習・交流の場を提供します。

子育てサポートシステムさんかくネットとは一時的に子どもを預かってほしい人(子育てサポーター)を登録し、子どもを預かってほしいという保護者の依頼に応じて参画センターが仲介するシステムです。

市民参画センター利用者数

来館者	15年度		14年度	
	利用者数	1日平均	利用者数	1日平均
活動室(有料)	14,295	40.3	14,744	41.2
ふれあいホール等(無料)	14,683	41.4	12,835	35.9
利用者計(小計)	28,978	81.6	27,579	77.0
見学者	143	0.4	286	0.8
合計	29,121	82.0	27,865	77.8

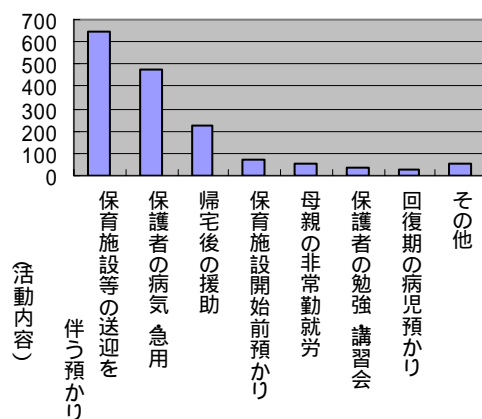
利用件数

利用件数	15年度		14年度	
	件数	子どもの数	件数	子どもの数
個人	1,149	1,579	1,654	2,092
団体	65	548	95	654
計	1,214	2,127	1,749	2,746

活動室利用目的別件数・人数

利用目的	公共団体		一般団体		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会議	9	182	317	4,556	326	4,738
講習会・研修会・勉強会・講座	18	651	559	7,729	577	8,380
講演会・フォーラム	2	80	9	279	11	359
その他	15	205	28	613	43	818
合計	44	1,118	913	13,177	957	14,295

個人利用事由別(複数回答)



団体用ロッカー・レターケース利用件数

レターケース(無料)	63	団体用ロッカー(有料)	24
------------	----	-------------	----

活動室の予約は、90日前から予約を受付(午前9時~午後8時)し、先着順となります。また、仮予約の変更・取消し等は、決まり次第ご連絡くださるようお願いいたします。
2階のふれあいホールが満席の場合は、事務室までご連絡ください。可能な限り調整いたしますので、お気軽に職員までお話しください。
今後、センターを利用されている方のご意見をより反映できるように方法を検討していきたいと考えております。

相談業務の設置は、現在の施設では相談者のプライバシーを尊重する場所の確保が困難なこともあり、既存の窓口のコーディネートを通じての提供や連携に努めております。
また、2月5日の市民参画センター交流まつりの実施に向け準備を進めております。
ソフト面では、限られた人員と現状の設備でも、工夫の余地はまだあると考えておりますので、ご意見やアイデアなど事務室までお寄せください。
団体の交流・活動内容の紹介では、センターのホームページの開設、また、2月5日の市民参画センター交流まつりの実施に向け準備を進めております。

ハード面では、従前の建物を活用した施設のため、駐車スペースの確保や活動室等の設備など、当初からのご要望をクリアできない状況ですが、市街地にある利便性と現在の施設で工夫していきたいと思っております。

センターへのご意見・ご感想にこたえて

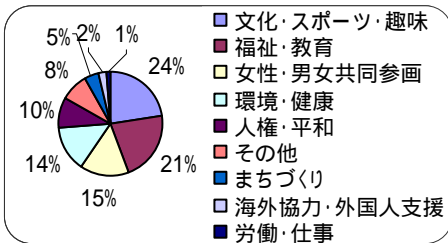
センターの活用について
聞いてみました！
活用してみました！



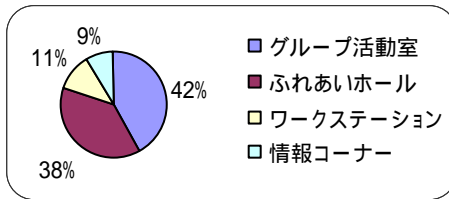
参画センター利用団体 アンケート・調査結果

・調査機関 平成16年10月
・調査対象 平成16年4月～9月
定期的に参画センターを利用している団体
・調査対象団体数 70 (配布)
・回答団体数 48 (回収)

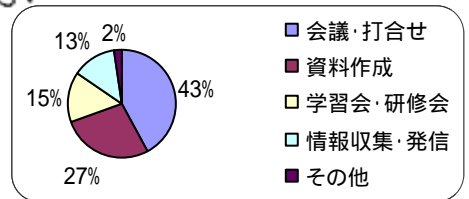
活動領域 (複数回答)



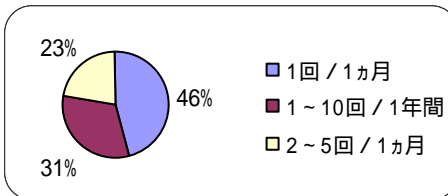
利用場所



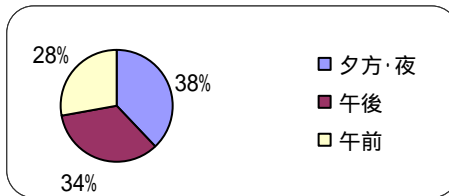
利用内容 (複数回答)



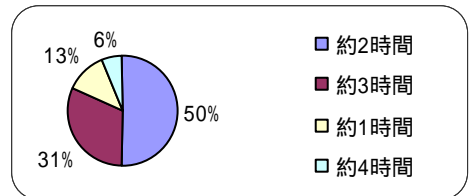
利用頻度



利用時間帯 (複数回答)



1回の平均利用時間



自転車の4人乗りは大変でした!

平成17年1月18日市民参画センターにて、グループ「温和家人ほんわか倶楽部」が「行列ができる子育て座談会」と題して、ワークショップを行いました。
座談会は、体験談披露、絵本朗読、ミニコンサート、交流会と内容の多いもので、2時間があっという間に過ぎました。
ママ・パパの子育て体験談は、それぞれ二男三女の親として子ども達や、パートナー、親同士の関りについて笑いあり涙ありのエピソードを話しました。
また、絵本「ラプンデルフオエバー」の朗読では、親子の愛は、親から子に伝えられ、生きていく限りずっと続く。やさしさや命の大切さを子に伝えることは大切。ただ

「ほんわか倶楽部」の先輩ママ・パパの子育て談

行列のできる子育て座談会

温和家人ほんわか倶楽部とは、弘前市主催の男女共同参画推進活動ステップアップ講座の受講生の中から男女共同参画の視点を地域に広めるための手法を考えることをテーマに選んだ人たちのグループです。男女が相互の協力の下に、子どもを健やかに養育すること、家族を介護することなど家庭生活における活動について、家族の一員としての役割をほんわかと果たすことを目的としています。

子育て中の若いお母さんからは、このような会をもつと行なってもらいたいという意見もあり、今回で、まだ2回目のワークショップとは思えない内容の濃いものでした。
抱きしめるだけの「無償の愛」の大切さに、温もりが伝わり会場の涙を誘いました。交流会では、約30人の子育て、孫育てをしているお母さんや、仕事で子ども達と関わっている人など、幅広い年齢層の方々が、今抱えている悩みや意見を話し、立場の違う視点や先輩ママからの意見などを聞き、安心したり、共感しながら交流をしていました。

日本女性会議2004まつやま

大会テーマ **集い、語り、ともに拓こう! 新たな関係(かたち)**

「国際婦人年から30年」
「女子差別撤廃条約批准から20年」
「北京女性会議から10年」という節目の年

宣言文

**一人ひとりが自立し、その個性のままに輝ける社会、
多様な生き方を認め合い支えあう社会を造ります。
誰もがいきいきと生きることのできる
真の男女共同参画社会を築きます。
そして、新たな関係(かたち)を力強く次の世代へ引き継ぎます。**
(日本女性会議 2004 まつやま大会宣言)

シンポジウム・分科会・
交流会に参加し、全国か
ら同じ思いを抱いて集ま
った仲間と交流し情報交
換をしました。

※ 参考 日本女性会議 2004 まつやま実行委員 HP

10月22日、23日、台風一過の晴天に恵まれた両日、全国から約3000人の参加者が松山に集い、性別を超え一人ひとりが尊重される男女共同参画社会の実

現を願い、学び合い、語り合いました。
弘前市から参加した女性4人に、各自が参加した分科会を紹介していただきました。



第2分科会『メディア・リテラシー』 あたらしいメディアをひらき 次世代へ

今、マスメディアの現状は、メディアで働く女性が少ない、意思決定部門に女性が少ないこと、メディアで働く女性の人権に対する認識が低いことなどがある。情報を発信する立場の問題だけに重要課題とされている。「国の男女共同参画基本計画・メディアにおける女性の人権の尊重」には、女性の人権の尊重には、女性の人権を尊重した表現の取り組みと国の行政機関の策定する広報、出版物等に性にとらわれない表現を促進することなどがあげられている。分科会では、多様な価値観論理が交錯する今こそ何が正しく、何が悪いことなのか読み解くためにはメディアに振り回されない確かなジェンダーの視点をもってほしいと話されました。
齊藤むつ子

第8分科会『環境C』 ゴミ問題から社会を変える

コーディネーターの京(みやこ)エコロジー・センター館長の高月紘氏から、「ごみ問題とライフスタイル」という観点で話が出されました。

- パネリスト3名から自分達の活動紹介がありました。
- ・ 暮らしを見つめる会代表の内田洋子氏は、生活者の視点として活動をはじめた「グリーンコンシューマーになる買い物ガイド」のお話
 - ・ 生活協同組合コープぎふ非常勤理事の荒川恵美子氏からは、学校での牛乳パックリサイクルを1クラスから全校へ5年かけて広げたことと、障害者の方の仕事起こしになったお話
 - ・ 最後の徳島県勝浦郡上勝町町長の笠松和氏からは、2003年日本発の「ごみ・ゼロ宣言」の取り組みのお話

色々な“ごみ談義”が繰り広げられました。加藤とし子

第8分科会『環境A』 ～調和と共生～人間と命の源の水～

コーディネーター原ひろこ、パネリスト荻原なつ子、三隅佳子、福島忠雄の各氏による、『調和と共生 人間と命の源の水』21世紀は水の世紀と言われ、人類が環境と共存するためには、人間社会が環境汚染や自然資源の枯渇を引き起こさない形で、持続的生産と消費のあり方を探求することが重要だ。人々が豊かな思いやりある多様な視点でエンパワーメントしていき、行政と市民と企業による新しい解決の道を探る必要がある。現在日本ではどこでもいつでも、蛇口をひねれば水が出る。美味しい水は、地域の実情にあった方法で保全が必要だ。自然の構成要素である水は、命あるものにとって必要財である。海～空～陸～海と環境資源をいかに守るかが必要だ。水と人、自然と暮らし、あらゆる視点で共に考え行動してこそ命の源を保つことができる。
鈴木豊子

第13分科会『家族』 拓かれた家族～個を認め合うなかで～

『家族のあり方も時代と共に変わりゆくもの。
拓かれた家族とは、
一人ひとりの人権が守られ、多様性を認め合う家族。
生き生きとした者の共同体それが家族。
一人ひとりが「個」として自立し、
生き生きと暮らせる社会にするために、
「個」を基本とした生き方を認め合うことが大事。』
講師 伊田広行 (大阪経済大学教員)

ということで、家族は、これまで社会構造の基礎的単位と位置づけられて、さまざまな社会的機能を果たしてきた。しかし、縛られた家族から自由な家族へ。一人ひとりが主体で、個人に必要な能力・力をつけていこうと力強い言葉をいただきました。
大湯久美子

(弘前市民参画センター利用団体紹介)

(しらゆり会)

目の不自由な方に朗読テープ作成



「しらゆり会」は、目の不自由な方のために、主に朗読テープを作成しているボランティア団体です。昭和54年、朗読奉仕を行なうために点字奉仕グループから独立し結成されました。現在、会員は27名で、青森県視覚障害者情報センターの依頼図書・松丘保養園機関誌「甲田の裾」・市の広報・個人依頼図書等をテープに吹き込んでいます。また、盲老人施設「津軽ひかり荘」・市立図書館等でお年寄りや子ども達に読み聞かせをしています。

それぞれのテープ作成は、一人ひとりの作業です。周到な調べ、調子を整えての朗読、校正者のチェックと、1冊の図書を仕上げるのは相当の集中力を必要とします。大変ではありますが、間違いのない、聞きやすいテープに仕上げたいと、地道な活動を続けています。会では、それを技術面から支え、一層の質の向上をはかるために、弘前市民参画センターをお借りして講習会を開き、専門家に直接指導をお願いしています。

編集後記

「日本女性会議 2004 まつやま」に参加しました。

行きは台風、帰りは地震。

「災」害の心配もありましたが、四国は快晴でした。男女共同参画社会の実現のためには、社会・家庭・職場などで、参画推進運動ができる状態を作ること、システムを変えていくことが大切!!



本の紹介

著書名

『物は言いよう』



平凡社

「女にしておくのはもったいない!!」 `えっ?
~ 思わぬセクハラを防ぐ60の心得 ~

「物は言いよう」のキーワードは「FC - エフ・シー」

[エフ・シー (FC = Fem^{フェミ}i Code^{コード}) - 言動がセクハラや性差別にならないかどうかを検討するための基準 (本書より)]

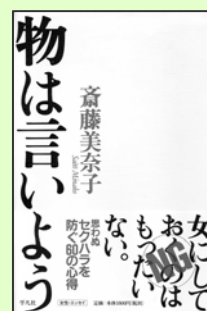
「セクハラ」と言ってはきついが「あら、それってエフ・シー?」と言い換えてみると、カットする前にわが言動を振り返らざるを得なくなりませんか?

小泉純一郎首相、作家の林真理子さんや父親の積極的な子育て参加を呼びかけている作家の鈴木光司さんなど著名人の発言や記事、行動を60例あげ、FCの基準ではなぜ性差別やセクハラになるのか、どのように言い換えればよいのか、このように言ったらどうかと、踏み込んで手助け? をしてくれている。著者はあとがきで「この本は評論でもなく、エッセイでもなく、実用書である」と述べているが、せめて公共の場では「TPO」をわきまえて「FC」を守れと。

「物は言いよう」とは言うけれど、本音は日ごろの言動にポロリと出るものだ。FC **がなぜ必要か** といえば「人を不快にさせないため、自分自身の品位を下げないため」であると、思わぬセクハラ発言に警告をしている。

軽いタッチで読みやすく、人権の領域まで考えさせられる。

松子



— おしらせ —

『市民参画センター交流まつり』

日時 平成17年2月5日(土)
午前10時30分~午後3時30分
会場 弘前市民参画センター(桜大通り・中央交番隣り)
入場 無料
託児室 準備あり(事前申込不要・2階プレーコーナー)
問合せ 弘前市民参画センター交流まつり実行委員会事務局
(市民参画センター内)

弘前市民参画センター 【編集メディア部会】

〒036-8355

弘前市元寺町1-13

Tel 0172-31-2500 Fax 0172-36-1822

開館時間 9:00~22:00

年中無休(年末年始・臨時休館日を除く)